

## 基本施策 A 1 歴史・文化遺産を守り、活かし、伝えます

主管課：文化財課

### 個別施策

- A1-1 文化財を市民の誇りとして保存・継承し、有効活用を図ります
- A1-2 歴史・文化遺産に対する市民意識を高め、国内外に向けて発信します
- A1-3 史跡「出島和蘭商館跡」の復元整備を推進し、まちづくりに活かします
- A1-4 世界遺産の登録を実現し、その価値を世界に発信します

### ア 施策の目的

歴史文化遺産が、市民や事業者の理解のもとに、貴重な財産として、適切に保存・活用され、伝えられている。

### イ 基本施策の評価

B c 目標をほぼ達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

### ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2	
文化財の指定・登録等 件数[累計]	290 件 (26 年度)	↑	目標値	294	296	298	300	302
		実績値	286	288	289			
		達成率	97.3%	97.3%	97.0%			
主要な歴史文化施設 ※1を訪れたことが ある市民の割合	59.1% (26 年度)	↑	目標値	60.1	60.6	61.1	61.6	62.1
		実績値	67.8	63.9	64.9			
		達成率	112.8%	105.4%	106.2%			

※1 計7施設：歴史民俗資料館、外海歴史民俗資料館、シーボルト記念館、サント・ドミンゴ教会跡資料館、歴史文化博物館（企画展を除く）、高島石炭資料館、軍艦島資料館（野母崎地区）

### エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

### オ 審議会における政策評価に対する意見

なし

### カ 審議会における施策推進に向けた提案

- 国も歴史の勉強は国際人になるために必須だと言っているが、教育の現場で歴史をどう取り扱っていくのかは大事なことであり、研究団体の高齢化が進んでいくなか教育の根本から考え直す必要があるのではないか。
- 現在の高校生は、日本史ではなく世界史だけ学習している若者が多く、基本的な日本史を理解していない学生も多い。パンフレット作成や情報発信を行う際には、その

ような点を考慮して取り組む必要がある。

- 文化財建造物の保存・修理には相当な期間と財源が必要となることは理解するが、端島などについては劣化がどんどん進んでいってしまうのではないかと危機感を感じている。手遅れにならないように、計画的に保存・修繕を実施する必要がある。
- 文化財サポーターについて、高齢化が進んでいることが問題となっている。若い世代のどこにターゲットを決めてサポーターの募集をアプローチするかを検討するとともに、若い人が減少していく中で、シニア世代のバトンタッチも今後必要となってくる。
- 出島の運営管理が今後指定管理者になるが、指定管理者が自由度をもって入場者数を増やす取り組みをするためには、適正な料金体制が必要であることから料金改定を検討する必要があるのではないか。

#### キ 次期総合計画の策定に向けた意見

- 成果指標において、施設の入場者数は大切であるが、それに加えた成果指標の設定も必要ではないか。
- 世界遺産や国宝などの文化財については、歴史上の出来事や祭礼と関連付け、市民参加ができるような活用の検討が必要である。
- 文化財の活用について、文化財という大きなくくりではなく文化財建造物のくくりでより有効に活用できるよう、検討していただきたい。